

国際ロータリー第2730地区

高鍋ロータリークラブ

会報



会長 石田 喜克
 副会長 武末 喜久治
 幹事 岩切 洋
 例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
 例会場 ホテル泉屋 2F
 事務所 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋 1368-4
 ホテル泉屋内 TEL/FAX 0983-21-1636

第 1807 回 平成 25 年 10 月 17 日プログラム

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1. 点 鐘 | 7. BOX披露 |
| 2. ロータリーソング
我らの生業 | 8. 各委員会報告 |
| 3. ビジター・ゲスト紹介 | 9. 次週例会案内 |
| 4. 会長の時間 | 10. 点 鐘 |
| 5. 幹事報告 | 11. |
| 6. 出席報告 | |

2730 地区ガバナー 大迫 三郎

中部分区ガバナー補佐 尾崎 敏弘

第 2730 地区テーマ

『職業奉仕の実践』『感動』

高鍋ロータリークラブテーマ

『みんなで力を合わせて行動を』

10 月の月間テーマ

職業奉仕月間・米山月間

本日の例会案内

*職場訪問—宮崎ダイシンキャノン (株)

次週例会案内 ; 10 月 24 日 (1808 回)

*外部卓話—高鍋警察署 *プログラム委員会

第 1806 回 例会内容

■会長の時間

会長 石田喜克君

本日は、職業奉仕月間・米山月間の第一弾として 2730 地区・米山記念奨学会・副委員長の長嶺貴臣様をお招きして米山奨学会に関するお話を頂くことになっております。昨年度の皆様からの米山奨学会への寄付金収入は、13 億 2500 万円 (前年度 12 億 9500 万円) で 3,000 万円増加はしているが、支出に対しては 3,400 万円不足している状態です。不足分は流動資産で補っているみたいです。



特別積立財産の取り崩しはしていないそうです。悲しい事に、2013 年度から採用数を 800 人から 700 人へ縮減されたみたいです。100 名の減少は、今後の奨学事業にどのような影響をもたらすのか興味深い事案と考えております。私自身があまり勉強していない部門ですので、頭をリセットして米山奨学会バージョンに設定させて頂きます。長嶺副委員長、宜しくお願い申し上げます。

さて、本日の例会はゲスト・ビジターが多数参加されている減多にない機会でございますので、時間の許す限り交流を深めてください。特にドイツ VTT メンバー 5 名におかれましては、例会終了後に再度川南町の養豚場を

視察研修に行かれるように急遽スケジュール変更となりました。交流の時間が変更となりました事を心よりお詫び申し上げます。本日も、ロータリーを楽しみましょう！

■幹事報告

幹事 岩切 洋君

<文書案内>

*宮崎大学学園祭ポスター
掲示のお願い



■ドイツ VTT 来訪

チームリーダーの カロリーネ・ウルリヒさんとメンバー



■出席報告

出席委員長 野田俊一君

出席状況 (10/10)

会 員 数	48 名
出席会員数	37 名
ホーム出席率	78.72%
前々回の修正出席率	85.11%

■BOX披露

親睦活動副委員長 森本直樹君

<ニコニコ・財団・米山BOX>

- *石田喜克君 VTTメンバーをお迎えして。長嶺貴臣様をお迎えして。卓話をよろしくお願い致します。
- *岩切洋君 VTTメンバーをお迎えして。お疲れ様です。
- *森本直樹君 誕生日お祝いのお返しとして。
- *黒木敏之君 花守山募金ありがとうございます。皆様のご協力に感謝申し上げます。でもまだまだ募金をお願いしています。すいません。
- *中武泰一郎君 本日はご多用の中、長嶺様には米山月間の卓話をお引き受け頂きありがとうございます。よろしくお願い致します。
- *藤本範行君 ドイツVTTの皆様をお迎えして。ようこそ高鍋ロータリークラブへおいで下さいました。また、長嶺様の卓話を楽しみにしています。
- *池部文仁君 南九州信用金庫協会主催の野球大会が、12日高鍋町営球場で開催されます。11日はその前夜祭が四季亭で行われますが4県の代表として4金庫110名の出席ですので高鍋の夜の街も紹介しておきます。泉屋ホテルにも42名が宿泊します。高信は県予選で延岡信金に負け準備として協力します。

■米山記念奨学委員会アワー

RI2730地区 米山記念奨学会 寄付・選考委員長
長嶺 貴臣様 (宮崎北RC)

皆様こんにちは、高鍋クラブ様には私より詳しい方がたくさんいらっしゃると思いますが、本日はロータリー米山記念奨学事業についてまた地区の米山奨学委員会の現状につきまして簡単にご説明させていただきます。



ロータリー米山記念奨学事業とは、日本の全ロータリアンが参加し推進している事業で、日本で学ぶ外国人留学生へ奨学金を支給し支援しています。

1年間に全国で約700人、これまでに121カ国から17,545人を支援しています。日本には、外国人留学生を対象とする民間奨学団体が129団体ありますが、米山はその中で最大の事業規模です。博士課程、修士課程の方は、月14万円、学士課程の方は月10万円の支援をしています。

米山の一番の特徴は“世話クラブとカウンセラー制度”によって毎月例会に参加し、その時奨学金を渡しロータリアンと交流し人と接しながら、学び、変わっていきま

す。米山奨学生は、たくさんの国の中から日本を選んで、専門知識を学びに来た優秀な人材です。将来の世界を支える彼らに、日本人の“心”、ロータリーが求める平和への願いを理解してもらう大きなチャンスです。

高鍋クラブの皆様が米山に対する日頃のご支援に心から感謝申し上げます。

つづいて、財政状況、地区の寄付状況についてご説明します。みなさんが米山に寄付したお金は、全額、奨学事業に使われます。昨年度の寄付金収入は13億2,540万円(オレンジと赤の部分)だったのに対し、奨学事業に関わる費用の支出は13億5,880万円でした。全体の不足分は1,341万円で、これは流動資産で補いました。

理事会等の“会合旅費”、管理部門の“事務局人件費”等の管理費支出は、“資産の利子収入”で賄っており、いただいた寄付はすべて奨学事業だけに使われています。

米山では、2013年4月より奨学生数を800人から700人に減らして、事業費を抑えています。

昨年度の全国平均は15,046円、当地区は一人平均9,726円、全国で第28位でした。

特別寄付ですが昨年度、全ロータリアンのうち特別寄付をした人の割合は全国平均で40%でした。ちなみに、第2650地区では79%、8割近くの方が毎年、特別寄付をなさっています。当地区では25.6%の方にご協力いただいています。この割合を今後さらに増やすことができるよう皆さんにさらなるご協力をお願い申し上げます。また高鍋クラブ様では個人の特別寄付者が40人と地区で4番目に多いクラブとなっております誠にありがとうございます。

米山は公益財団法人ですので、米山への寄付は、所得税・法人税の税制優遇が受けられます。このような寄付のメリットをご活用いただきながら、ぜひ毎年のご支援をお願いいたします。ガバナーが掲げる当地区の今年度の目標額は、1人当たり15,000円となっております。

地区で奨学生を何人採用できるかは、寄付額の全国比で決まります。来年の当地区の奨学生数は13人です。

巣立った米山奨学生は、世界でさまざまな活躍をしています。そのうちの1人をご紹介します。

中国の姫軍(キグン)さんは、多くの日本企業を顧客にもつ弁護士で、昨年、日中関係が悪化した際は、中国にいる日本企業や駐在員の安全のため、24時間ホットラインを設けて無料相談を受けたそうです。彼はまた、2007年から毎年50万円もの寄付金を米山奨学会へ送りつけてくれており、中国学友会を正式に発足させた初代会長でもあります。

もう一方はスリランカ出身のスチッタさんは、一緒に日本に来た仲間たちが日本語になじめずに、夢をあきらめて帰国する姿を見て、母国に日本語学校をつくろうと決意しました。私財を投じて開校したのは、別府の名を冠した「別府日本語学校」です。日本語だけでなく、留学後すぐに生活ができるよう、箸の使い方や風呂の入り方など、日本の文化を教えています。この学校の「留学コース」を修了した学生は、全員日本へ留学を果たしています。

また米山学友会がございます。元奨学生と現役奨学生によって組織されるもので、日本国内に31、海外には台湾・韓国・中国・タイにそれぞれ学友会があります。

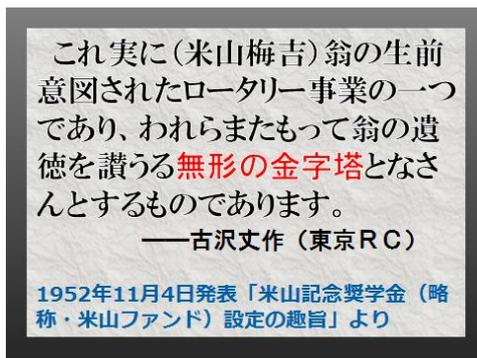
活動内容は学友会によって異なりますが、被災地のボランティア活動や、地区大会で母国のお茶サービスをする等、さまざまな活動をしています。学友会では、毎年老人ホームを慰問したり、地区大会で母国のお茶をサービスしていたり、またタイ学友会も、海岸清掃、ウミガメの放流など、すでに数多くの活動を行っています。

そして、本年10月19日ですから今日から数日後に、ネパールで海外5番目の米山学友会が誕生します。

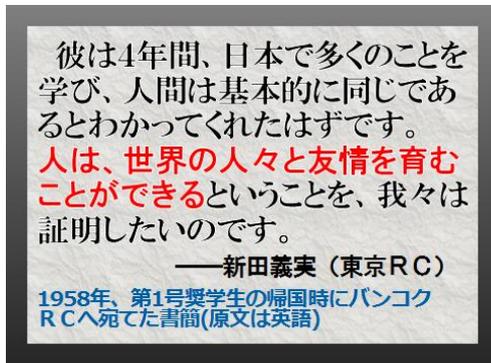
昨年度、ロータリー米山記念奨学会では、事業創設60周年を記念して、よねやま親善大使を募集しました。

80人を超える応募者の中から選ばれた、初代よねやま親善大使は、台湾出身のユウミンファンさんと中国出身のヤンシャオピンさんのお二人です。親善大使は、ロータリーや一般社会に向けて米山奨学事業のPRをしています。地区大会・米山関連セミナー・研修会などに親善大使を呼びたい場合は、米山記念奨学会事務局広報担当までご連絡ください。

当時のロータリアンの言葉をご紹介します。



古沢氏は、第1号奨学生のソムチャードさんの帰国を見届けることなく1955年に亡くなりました。その3年後、ソムチャードさんがいよいよ母国へ帰る日、東京RCの新田義実氏(になった・よしみ、のちに米山奨学会副理事長)がバンコクRCへ宛てた手紙の一文をご紹介します。



米山奨学事業は、日本のロータリーが世界に誇ることのできる国際貢献事業です。先輩たちがつないできた米山の灯を消すことなく、次の世代に伝えていくために、米山の灯をますます燃やし続けましょう。

ご静聴ありがとうございました。

<メンバー紹介>

佐々木九州男君

1. 職業 屋外広告業・広告士
2. 家族 妻と2人暮らし・犬一匹同居・長男東京在住・次男高鍋在住
3. 趣味 特になし
4. 座右の銘 運に任せて浮沈を聴
5. メッセージ 若い頃は、努力・忍耐・と元気の良い言葉を書いておりました。

長谷川修身君

1. 職業 菓子製造・販売
2. 家族 5名 妻1人、息子2人、娘1人
3. 趣味 ドライブ・旅行
4. 座右の銘 こつこつが最後に勝つ!! 万事塞翁が馬
5. メッセージ 大変良い勉強になる会だと思えます。自立したら息子達にも入会を勧めます。

<情報の広場>

10月26日(土)は、比木神社のお里まわりです。

<クラブ会報委員会より>

ゲストの皆様が多く、すばらしい一日でした。皆様、プロフィールの提出を宜しくお願ひします。



SAAの井上博功君



出席委員長の野田俊一君



親睦副委員長の森本直樹君



職業奉仕委員長の福本幸良君

例会案内

☆高鍋ローターアクトクラブの例会日変更

月曜日 ⇒ 火曜日

☆職場訪問 10月17日(木)

場所=宮崎ダイシンキャノン(株)

11時45分 ホテル泉屋出発

☆100%出席例会開催日 11月7日(木)